

退任のご挨拶

退任のご挨拶

前常任理事

生 駒 一 憲



2023年6月17日の第164回定時代議員会をもちまして常任理事を退任することになりました。思い起こしますと、2012年3月11日の第137回定時代議員会の補欠選挙で常任理事に選出していただき、4月1日から前任者の任期を引き継いで常任理事の仕事が始まりました。それから11年3か月、会務では産業保健を担当させていただきましたが、これについては一からの勉強でした。就任直後には私の職場（北海道大学）にまで説明に来ていただきましたが、このように担当事務の方をはじめ多くの関係する方々から懇切丁寧にご指導いただき、また、長瀬前会長、松家会長はじめ役員の方々に支えていただき、何とか最後まで続けることができました。産業保健研修会や産業医学基礎研修会では多くの先生にご講演をいただきありがとうございました。ご講演をいろいろ聞かせていただくにつれて、産業保健の奥深さを知ることができました。また、講師を務めていただきました産業保健活動推進委員会の先生方、北海道産業保健活動推進協議会、北海道産業保健総合支援センターおよびその運営協議会の先生方にもこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。日本医師会では産業保健委員会の委員を務めさせていただきましたが、産業医制度について、日本医師会や行政の生の声を聞かせていただき、大変勉強になりました。

産業保健以外でも、北海道医師会の先生方の意見をいろいろ伺うことができ、大学にいただけでは決して知ることのできない高い志に直に接することができたことは貴重な経験と考えております。北海道医報に掲載された私の就任挨拶を見返してみますと「医師会の活動は何もかも未知の領域」と書いていました。現在はその頃よりはいくらか医師会についての知識は備わったと思いますので、今後は医師会のために今までとは違う形で貢献できればと考えております。

最後になりましたが、北海道医師会のますますのご発展と諸先生方のご健勝ならびにご活躍を祈念しております。

退任の御挨拶

前常任理事

笹 本 洋 一



令和5年6月17日の第164回北海道医師会定時代議員会において、5期10年間務めた北海道医師会常任理事を退職しましたので、御挨拶させていただきます。

平成25年3月9日開催の第139回北海道医師会定時代議員会にて、常任理事に選出されました。この代議員会では、会長候補3名、副会長候補4名が立候補し選挙となりました。選挙戦を通じて、北海道医師会役員としての重みを身にしみ感じてさせられました。

常任理事として、最初の仕事は、平成25年6月16日開催の第140回定時代議員会での「当面の中央情勢に関する件（中央情勢報告）」でした。これまでの歴代医療政策部長の報告を参考に、医療に限らず政治・経済の国策の方向性がわかるような分析を行い、代議員の先生方が地元医師会で説明しやすいように、自分なりの方法でスライドを作成しました。就任後、社会保障改革プログラム法、医療介護総合確保推進法、病床機能報告制度、地域医療構想（当時はビジョン）、医療事故調査制度、新型インフルエンザ等対策特別措置法、新専門医制度、環太平洋連携協定（TPP）などが議論され、現在に至る医療政策の変化に目を丸くしました。

特に、地域医療構想アドバイザーを拝命してからは、北海道の21箇所の構想地域の調整会議に出席を心がけましたが、全てに出席することはできませんでした。この場を借りて、関係者の皆様にお詫び申し上げます。

4期目からは、地域医療部長を拝命しました。北海道内の住民や医療関係者の御意見、御希望を拝聴する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が拡大し、ほとんどの行事がストップしてしまいました。皆様から直接意見を拝聴する機会が失われたことは残念ですが、WEB開催という新しい手段を試みることもできました。広域の北海道では、一堂に会することが難しい場合もあり、WEB開催も一つの選択肢となることでしょう。

諸先輩、同僚の皆様、代議員会議員の皆様、郡市医師会の皆様、無理な注文にも答えていただいた事務局の皆様から、多くの御指導御助言をいただき、心から感謝と御礼を申し上げます。

令和5年6月25日に開催された第154回日本医師会定例代議員会で常任理事に選任選定されました。今後は、松本吉郎日本医師会会長の執行部の一員として、国民の健康を守り、安心安全を届ける医師会を実現すべく、全力で取り組みます。

今後とも、皆様の御指導御支援を賜りますようお願い申し上げます。

理事退任挨拶

前理事

しま だ みち ろう
島 田 道 朗



2年間の任期を終えこの度理事退任の運びとなりました。就任の際にも申しましたが、中央ブロックは千歳・恵庭・北広島・江別・石狩の5市で2年間ずつの持ち回りで理事を受け持っています。今回私は2度目の理事退任となります。前は右も左も分からず、只々参加することに意義を感じておりました。今回は、新型コロナ感染のまっただ中の2年間でした。対面での会議がほとんどなく、リモートでの会議をモニターのこちら側で眺めているだけの2年間でした。今年に入り、新型コロナ感染が2類から5類へと変更が決まる頃から対面の会議にも出席し始めていました。同じ空間で、顔を突き合わせることの良さを感じております（隣の先生と雑談をしたりするちょっとした感覚が昭和世代の私には心地良く感じられました）。

今回7月の海の日の連休に、家族で仙台・松島観光に行きました。帰りの空港で強い倦怠感を覚え翌日検査したところ、家族全員新型コロナウィルスに感染していました。今週の予定を全てキャンセルして現在自宅療養中です（症状は軽く、自宅でこの原稿を書いています）。長瀬 清先生の叙勲祝賀会も欠席しなければならず、大変心苦しく思っております。

新型コロナ感染が始まってから、毎日検査、治療にあたってきましたが、一度も感染することはありませんでしたし、ワクチンを6回打ちましたし・・・。

油断なのか何処で感染したのかもわかりません。ただ、空港・観光地でのマスク着用率は低く、飛行機のCAもマスクなしが見受けられました（5類となり当然なのですが）。この先どのような展開になるのかわかりませんが、私の周囲でもジワジワ広がっている感じもあります。まだまだ予断は許されない状況だと感じています。

今後は、微力ではありますが、一開業医として地域医療に貢献していく所存です。北海道医師会の諸先生には今後とも大所高所から、より良い北海道医療のためにご尽力いただきますようお願いいたします。退任の挨拶とさせていただきます。

理事退任の挨拶

前理事

おん むら ひろ き
恩 村 宏 樹



このたび北海道医師会理事を退任するにあたり、これまで多くの方々からいただいたご指導、ご鞭撻への御礼を込めて、一言ご挨拶申し上げます。

私は道南ブロックの代表として、平成25年4月から北海道医師会理事を拝命し、以後5期10年間にわたりその職を務めさせていただきました。今振り返ると、函館には医師会病院や医師会立の健診検査センターがあったことより、日医医師会共同施設検討委員会の委員となり、2か月に1度、東京の日医会館の会議に出席し、理事会で緊張しながらその報告をしたことがなつかしく思い出されます。

移動理事会では、いろいろな町に行かせていただき、初めて行った所もありました。特に釧路はあまりにも遠く、会議に間に合うために苦手な飛行機（プロペラ機）に乗らざるを得ませんでした。運良くあまり揺れませんでした。いい気分ではありませんでした。もちろん、翌日は函館までJRでのんびり帰りました。毎年12月の理事会の後の忘年会では、楽しいお酒を飲ませていただき、つつい飲み過ぎで二日酔いになったこともありました。

また、「大通公園を望む窓辺から」には何度か下手くそな文章を投稿させていただきました。このように、北海道医師会の戦力としては甚だ微力で、お恥ずかしい限りですが、私にとってはとっても貴重な経験となりました。

長瀬前会長、松家会長をはじめ、多くの方々に変な世話になりました。最後の3年間はコロナ禍でなかなか札幌に行けず、会議はweb出席となり、皆様にお会いできなかったことが心残りですが、これからは一会員として北海道医師会の発展を心より願っております。10年間、本当にありがとうございました。